

序

この報告書は(財)中部産業・労働政策研究会が第23期(2010年9月～2011年8月)に行った調査研究「定年後もイキイキと暮らすための働き方とライフスタイルのあり方」の成果をまとめたものです。

昨今、60歳以降の就労に関する議論が高まる中、元気な内は長く働きたい人、会社を離れ地域社会などで社会貢献活動に生きがいを見つける人など、定年後の生き方も多様化しています。その一方で、退職後、それまでの仕事一筋の生活からの切り替えに戸惑う人々も存在しています。

こうした中、定年後もイキイキと暮らすためには、定年を迎えて初めて生き方を変更するのではなく、中高年層に入る前から退職後の人生をスルーで見据え、自分に合った生き方とライフスタイルを考え、実践することが重要であると言われていています。

そこで本研究では、定年を控えた従業員に加え定年退職後の人々にもご協力いただき、在職時の就労実態や意識、生活態度や健康状態、仕事以外の生きがいや趣味、現在の家庭環境や経済状態、トータル満足度などをアンケート調査し、現状に満足している人、在職時の生き方を反省している人の特徴を調査・分析し、現役世代へのアドバイスを含め、定年後も充実した暮らしをするためのライフスタイルのあり方、そして労使の取り組むべき方向などについてまとめました。

報告書は3部構成となっています。このうち結論部分に当る第1部の総論では、調査結果の概要と調査結果から得られた定年後の望ましい姿を13の提言の形でとりまとめました。今回の調査では、大変多くのOBの方々から後輩へのアドバイスを含み貴重な自由記述をいただきましたので、それもできる限り掲載しました。

本書の提言が各企業労使の方々にとって、従業員が定年後もイキイキとした暮らしができるための施策を展開する一助になれば幸いです。調査に当たっては、中部地区の主要企業労使からなる「専門委員会」での活発な議論や貴重な助言をいただきました。報告書の作成に当たっては研究主査を務めていただいた大阪大学の久米功一准教授、名古屋市立大学の澤野孝一郎准教授、名古屋商科大学の久米功一准教授にご尽力いただきました。また、アンケート調査を含め多数の方にご協力いただきました。この場をお借りして心からお礼申し上げます。

2011年11月

財団法人 中部産業・労働政策研究会
理事長 加藤 裕 治